

ChatGPT に聞いてみた

「中国の強さ 繊維、鉄鋼、造船、鉄道、家電、自動車、液晶テレビ、太陽光パネル、半導体、スマートフォン かつて日本が世界裏のトップになった産業がかつて中国に奪われているこの原因は何か」

ChatGPT:

日本がかつて世界トップクラスだった多くの産業（繊維、鉄鋼、造船、鉄道、家電、自動車、液晶テレビ、太陽光パネル、半導体、スマートフォン）で、中国に主導権を奪われた原因是複合的ですが、主に以下のような要因が考えられます。

1. 規模の経済（スケールメリット）

中国は世界最大の人口を持ち、巨大な内需と労働力を活かして、量産体制を築くことができました。大量生産によりコストを大幅に削減し、価格競争で有利に立ちました。

2. 国家戦略としての産業育成

中国政府は産業を国家戦略として位置づけ、大規模な補助金、税制優遇、土地の提供、輸出支援などを行ってきました。特に以下のような政策が効果的でした：

- ・ 「中国製造 2025」: 先端製造業の育成
- ・ 「一带一路」: インフラ輸出を通じた市場拡大
- ・ 「千人計画」などの技術者獲得政策

3. 安価な労働力と柔軟な労働市場

かつての日本のように、中国も低賃金と長時間労働、労働組合の影響の小ささを武器にコスト競争で優位に立ちました。特に家電、繊維などはこれで一気に主導権を握りました。

4. サプライチェーンの集積

中国は各産業における部品供給、組み立て、物流、輸出港までの一貫体制を構築。これによりコストと納期を大幅に短縮。特にスマートフォン・家電・太陽光パネル分野で顕著です。

5. 技術キャッチアップと模倣の早さ

初期は日本や欧米の技術を模倣・逆設計(リバースエンジニアリング)する形で発展しましたが、国主導の研究開発や外国企業・技術者の取り込みにより、急速に自力開発力を強化しました。

6. 日本企業の構造的課題

逆に、日本が失った理由として以下のような内的要因も大きいです：

- ・ 意思決定の遅さ(年功序列、終身雇用)
- ・ 保守的で変化に弱い企業文化
- ・ 新興国市場への対応力の不足
- ・ 過剰品質(ガラパゴス化)による価格競争力の低下
- ・ リスクをとらない投資傾向

7. グローバル市場での霸権争い

多国籍企業との連携や買収、海外展開力において中国企業はより積極的です。テンセント、BYD、ファーウェイ、ハイアールなどはグローバル市場での地位を意図的に高めてきました。

8. IT とデジタルの取り込み

製造業とITを融合させる「スマート製造」をいち早く取り入れたことで、製造現場の効率が飛躍的に向上。これにより製品品質と価格の両立が実現しています。

結論

「日本が得意だった分野を中国が奪った」のではなく、「日本が守ろうとした分野に中国が攻め込み、変化とスピードで勝った」とも言えます。